

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに言います。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」
ヨハネ 3 : 3

——— デカルトの悩み ———

ある公園で、掃除人が日が暮れてきたので、急いで公園の掃除をして帰ろうとしたのですが、ある人がベンチに座っているので、その人を帰さなければならず、ベンチではおづえをついているその人に聞きました。「あなたはどちらから来たのですか?」「それがわからないので考えているところです。」「そうですか。ところであなたはどなたですか?」「私ですか、私は誰でしょう。」「ふざけないでくださいよ。困ったなあ」「いやあ、私は自分が誰かわからないので考えているところです。」「なんてこった。今公園の門を閉めて帰ろうとしているのに、それでこれからどこへ行きますか、行く所はあるのですか?」「いやあ、それがわかっていたら既にここを去っていたでしょう。」この掃除人の質問にとりとめのない答えをした、その人。実はあの有名なデカルトでした。

デカルトは、フランスの哲学者、近世哲学、解析幾何学の創始者です。この世の全てを、一切を疑い尽くして、ついに疑いえぬ真理の基準として、考える自己を見出し、そこから精神と物体とを、相互に独立な実体とする二元論の哲学体系を樹立したのです。なんだか難しすぎますね。

つまり、ここで彼が考えていた事は、“自分はどこから来て、なぜ生きて、どこへ行くのか”ということ、だったのです。皆さんはこの質問（私はどこから来て、なぜここにいるのか、そしてこれからどこに行くのか）に答えられますか?

——— ニコデモの悩み ———

さて、ここに同じように人生の問題で悩みを抱えている人が登場します。ニコデモです。彼は、ユダヤ人でこの時代のあらゆる学問を身につけて、人々を教え、導き、皆から尊敬されていました。しかし、このニコデモですらどうしてもわからないことがありました。それは“人は死んだなら、どこに行くのだろうか?”ということでした。彼自身、確信がなかったし、もちろん人に教えることなど出来ませんでした。彼は悩んでいました。

そのような時、彼はナザレのイエスのことを耳にしました。人々の噂ではそのイエスという人は“ナザレからやって来た預言者で、不思議な業を行い、彼のメッセージは、今までの多くの預言者とは違って、生命と力とに満ちあふれたものである”とのことでした。

ニコデモはその預言者に会いたくなりました。この方に会ってお話を聞けば、もしかすると、神の国の事がわかるかも知れない。なんと、そのイエス様がこの町におられることを知って、早速、会いに出かけました。

———— イエス様との出会い ————

時は夜でした。この「夜」イエス様に会いに行ったということの中に、幾つかの意味があると思います。

・第1に、ニコデモは世間体を気にしていたのかもしれませんが。年長者であるニコデモが30歳そこそこのイエス様に相談するなどということは、彼のプライドがゆるさなかったのでしょう。だから、誰にも見られない時間帯、暗い夜に出かけたのかも知れませんね。

・第2は、ニコデモは、夜の静かな時に、水入らずでイエス様とじっくりと話し合いたかったのかも知れません。

とにかく、イエス様の所にニコデモはやって来ました。イエス様は理解しました。彼の全ての悩みを理解しました。そして彼に言いました。3節で「まことに、まことにあなたに告げます。人は新しく生まれなければ、神の国を見ることは出来ません。」更に、5節で「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることが出来ません。」ここでは2回も続けて「生まれる」という言葉が繰り返されています。イエス様がここで強調していることは「人は母の体から生まれたままでは、神の国つまり天国に入ることが出来ない」ということです。実は、人は全て、神さまを信じていない状態で、罪人としてこの世に生まれてきます。そのままでは罪のない天国に入れません。でも、誰でもある時期にイエス・キリストと出会い、この方を信じてクリスチャンになるのです。

クリスチャンとは、イエス・キリストを神の御子と認めて、彼を信じ受け入れ、神様と和解し、罪が赦されて、生まれ変わり（新生）、神様の子供とされた人たちのことです。

———— 青銅の蛇 ————

さて、14節の所に「モセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。」と書かれていますが、内容はこうです。昔、エジプトから脱出し救われたイスラエルの民は荒野を旅して約束の地を目指していました。民は荒野の生活は厳しくて、食べ物のこと等で愚痴を言い神に罪を犯しました。怒った神は毒蛇を送られ噛まれた民は死にました。やっと罪に気がついた民はモセに頼みました。「祈ってください。」モセが神に祈っていると神様は言われました。「旗竿の上に青銅の蛇を造り、罪を悔い改めた者は、その青銅の蛇を仰ぎ見なさい。」その言葉を信じた者は、罪をお詫びして、蛇を仰ぎ見ました。仰ぎ見たものは噛まれても死にませんでした。「そんなことあるもんか」と信じなかった者は死にました。

そして、イエス様はニコデモに次の様にも語られました。15節「・・・それは信ずる者がみな、人の子にあって永遠の命を持つためです。」この蛇は十字架に掛かれたイエス様です。私たちも罪をお詫びして十字架のイエス様を仰ぎ見るならば、救われるのです。信仰は「信じて、仰ぎ見る」と書きますね。

ニコデモさんはきつとこの時イエス様を信じたはずです。彼に新しい人生が始まりました。実は私も、今から52年前、23歳の時イエス様を信じました。その時、私の世界観、人生観、価値観、使命感、死生観が変わりました。それまで自己中心に生きていた私は、神様が中心になりました（もちもん度々失敗はありました。日々守られています）。そして今、神の子として誕生して、神様によって生かされている日々を送っています。永遠の御国も約束されています。いつ死んでも天国が約束されている。私はそのことを確信しています。

ニコデモにも新しい人生が始まりました。イエス様が彼の人生を死から生命へと変えて下さいました。

聖書の言葉。「神は実にそのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」ヨハネ3:16

——— 皆さんは、このような人生への質問、答えられますね ———

さて、皆さんはデカルトが探していた人生、ニコデモが求めていた人生、自分がどこから来て、なぜ生きて、これからどこへ行くのか？ この様な質問には人生の根源が何かを知れば答えられますね。

「あなたはどこからきましたか？」「神からいのちいただいてこの世に来ました。」

「あなたは誰ですか？」「わたしは神の子です。」

「あなたはここで何をしていますか？」「はい、神の使命の中に生きています。」

「あなたは人生の最後に、どこに行くのですか？」「はい、天国に行きます。」

私たちは、自分のアイデンティティを明確に答えられるはずです。

最後に、神の使命の中に生きた人、生きなかった人について、学んでみましょう。

---- 自分の目標の中で生きた人 ----

「外套（がいとう）」というロシアの小説の話です。

「素敵な外套を一着買いたい」これがある貧しい人の目標でした。食べるものも節約してお金を集めて良い外套を買いました。自分の目標が達成して、気分良く家に帰る途中で、強盗に遭い外套を剥ぎ取られてしまいました。外套を奪われて彼の人生も奪われました。あんなに苦労してやっと得たのに、人生の目標が無くなって、彼は病気になり寂しく死んで行きました。これは1つの例え話です。私たちも、私たちに対する神の計画を知らずに、自分の願う道だけを歩むならば、外套1着の故に人生を台無しにした人の様になります。

---- マザーテレサとダイアナ皇太子妃 ----

1997年に2人の女性マザーテレサとダイアナ皇太子妃が亡くなり、全世界が大きな衝撃を受けました。テレサは貴族の家系に生まれ、良い教育を受け修道院に入りました。ある日車で旅行している時に自分の使命を悟り、インドで最も悲惨な生活をしている人々の所に行きました。彼女は36000人の貧しい人々の世話をし、子供の家を建てて孤児たちと未婚の母たちを助けて精神薄弱の人々を保護しました。更に、ハンセン病患者の村を作り患者達の世話をするなど生涯に渡り、貧しく疎外された人々の為に献身しました。

同じ女性であるダイアナ妃も良き家系の生まれで良い教育を受け、チャールズ皇太子と結婚して豪華な宮殿で暮らしました。皇太子妃として良いこともしましたが、家庭内の不和ゆえに5回も自殺未遂し、うつ病に苦しみました。皇太子と離婚した後、恋愛の噂が流れ、最後には悲惨な人生を終えました。

神が同じ女性として違うタラントをそれぞれに与えました。神はテレサにもタラントを与え、皇太子妃にもタラントを与えられました。さて、テレサは使命に従いました。辛い道でしたが、多くの実を結びこの世を去りました。ダイアナ妃は明らかな使命が分からず迷いながら世を去りました。

私たちは美しく華やかなダイアナ妃も素敵なお方だと思いますが、老いて質素に生きたテレサを尊敬します。神もダイアナ妃には良く頑張ったねと褒められたかも知れませんが、それ以上に、テレサには「良くやった忠実な下僕だ、あなたは僅かな物に、忠実だったから、たくさんの物を任せよう」と言われたことでしょう。

皆さんも、神様から示された、使命の中に歩んでください。

「あなたがたはむしろ、主のみこころであれば『私たちは生きていて、このこと、あるいは、あのことをしよう』と言うべきです。」
ヤコブ4:15

新しい人生の一步、踏み出しましょう。